



虹っ子だより

家庭数

北本市立中丸東小学校

6月号 令和8年5月27日

やさしい子

たくましい子

進んで学ぶ子

な

か

ひ

が

「やさしさ」を基盤とした創造性の育成

校長 岡安 栄一

5月15日に北本市体育センターでの中丸東小学校、中丸小学校、石戸小学校、南小学校の6年生が参加した球技大会で、中丸東小学校のA、Bチームがそれぞれ2勝を挙げ、ともに優勝するという快挙を成し遂げました。6年生の皆さん、おめでとうございます。試合中、ドリブルやパスのスピード、攻める場面と守る場面の切り替えの速さなど、本校6年生は練習の成果を十分に発揮していました。

この攻める場面と守る場面に応じて陣形を変えるという戦術は、「創造性」を考える際にとても役に立ちます。攻める場面と守る場面という二つの異なるものを1つの試合の中で巧みに組み合わせることで素晴らしい結果につながりました。このように異なる二つのもの、またはそれ以上のものを組み合わせることによって新しいものを創り出すことをイノベーションや創造性と言います。創造性の例を挙げると一6月に6年生は修学旅行で箱根彫刻の森美術館に行くことを考慮して一ピカソのキュビズムという絵の描き方は、多視点による画面構成とアフリカ美術を組み合わせています。また、エジソンもゼロから発明したのではなく、既にあるものを組み合わせ、それを社会の中で使えるようにしたことから発明王と言われるようになりました。

普段、誰もが行っている考え方の中で、このような創造性を最も発揮するのが、仮説思考。仮説思考とは、何かを調べる際に「なんとなく」見るのではなく、「きっとこうなっているのではないか?」「こうすれば上手くいくはずだ」と、自分なりの見通し(仮説)を持って臨むことです。この自分なりの見通しを持つ際に、異なる二つ以上のものを組み合わせると、斬新な仮説が組み立てられ、それが創造性につながります。

仮説思考の特徴的な考え方は、結果から原因を考えることです。仮説を立てる際に、異なる二つ以上のものを論理的に飛躍して組み合わせることがあるので、仮説思考は間違えることがあります。そのため、仮説思考は間違える可能性がある考え方です。この仮説思考を文学に取り入れたのが探偵小説。探偵小説では間違えた仮説(推理)を楽しみながらも、シャーロックホームズなどの名探偵が難事件をまるで快刀乱麻を断つように解決する仮説思考(推理)の天才として描かれます。

本校を含めた東中学校区では授業の方法として「授業6原則」に取り組んでいます。その中で、課題や問題を解く際に「既習事項の確認・比較、見通し」を行う時間を設けて、「今までに習ったことでどんなことが使えるか」、

「今までと何が違うのか」を児童一人一人が考え、確認しています。このときに働かせるのが、仮説思考。この時間で自分一人あるいは友達と相談しながら、今まで習ったことを組み合わせ、新しい解き方などを見つけ、「こうすればうまくいくはずだ」等と見通しを立てています。

以上を踏まえると、仮説思考を通して児童の創造性を育むために大切なことは「間違えても大丈夫」と児童一人一人が安心していられる空間です。今後も、「共感」と「折り合い」を兼ね備えた「やさしい子」とともに、児童の創造性の育成に努めていきます。

